

3 歳児の拒否に対する保育者の介入行動と幼児を捉える視点との関連

野口 隆子

(お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科)

【問題】 幼稚園教育は幼児一人一人を捉えその発達を促す幼児理解に基づく(文部省, 1992). 秋田・安見(1997)はRCRT(近藤, 1994)を用い, 幼児を捉える視点には対象となる幼児の発達の特徴を表す保育者間に共通の視点だけでなく, 保育者個人の価値観を反映する独自の視点も存在しているという. つまり保育者自身の持つ期待や実践経験による知識などが幼児に対する理解に反映され, 子どもに対する関わりとして表出されると考えられる.

野口・安見(2000 発心)では3歳児クラスで発生する『拒否』に対する保育者の介入行動を検討しているが, 本研究ではさらに保育者の介入行動における個人差と個々の視点との関連性を検討することを目的とする.

【方法】 <協力者> 都内私立幼稚園の3歳児クラス担任2名(保育者A: 保育経験3年目, 3歳児のみを経験/保育者B: 初年), 園児29名(M=12, F=17, 平均月齢41.69ヵ月).

<調査内容> ①教師用RCRT(近藤, 1995) ②参与観察法: 入園当初から2ヶ月間(週1回)の予備観察を経, 本調査を6, 7月(週2回, 計12日)に行った. ビデオカメラ3台(定位置に設置)とフィールドノートを用いて拒否事例を収集. その中から朝の自由遊び時間内で発生した室内での拒否に対する保育者の介入の事例を分析の対象とする. その他, 週1回行われる職員会議への参加や観察終了後の保育者へのインタビューによる資料も参考にした.

【結果】 <視点の特徴> RCRTの結果を要約しTable1に示す. 両者の視点を比較すると, 保育者Aは子どもが仲間関係をうまく形成し自分の思いを相手に伝えられるかといった本研究で着目する拒否と関連した視点を中心に持っている一方, 同じ子どもを対象としても保育者Bは異なった視点を持っている. また2名の合同の因子分析結果から, 集団行動と個人行動に関するもの, 言語的な自己表現に関するものが共通の視点であることがわかった.

<拒否に対する介入行動の特徴> 観察データを分析したところ, 幼児の“拒否場面”には「物・場所をめぐる拒否」「直接的行動に対する拒否」「非直接的行動に対する拒否」「関与的拒否」が, “拒否表現”には「叙述的拒否」「単純拒否」「情緒的拒否」「攻撃的拒否」「回避的拒否」が見られた.

保育者は両者とも拒否に多く関わる子には多く介入するという共通の傾向があった. しかし保育者が介入する“拒否場面”, “拒否表現”及びタイミングについて検討したところ, 独自の特徴があった. 保育者Bはたたく・押すなどの「直接的行動に対する拒否」や泣くなどの「情緒的拒否」といった明かな拒否行動に関わっている. 保育者Aはイメージや表象上の対立で起こる「非直接的行動に対する拒否」や顕在性の低い「叙述的拒否」などに多く介入していることから, 子ども同士の拒否の相互作用により気を配り, 詳細な関わりを行っている. また保育者Aの方が全体の介入頻度も多く, タイミングも早いという特徴がある. さらにクラスの中で拒否の最も多い幼児1名に対する関わりを分析したところ, 保育者の視点に沿った異なる対応が見られた. つまり幼児を捉える視点によって保育者の重点の置き方は異なり, 介入の細やかさが異なることが示唆される. また保育者の経験年数には差があり, それが視点の構築に影響する可能性もあるだろう.

【考察】 保育者の持つ視点と介入行動との関連性が示された. これらの視点は日々の保育実践と省察の循環からなる“主観の修練”(津守, 1987)を通して構築される. 従って子どもに対する認識を実践の中で確認し, 子どもを理解するための適切で洗練された視点を内在化する循環のプロセスは保育者によって量的・質的に異なってくるのが予想される今後の課題として, 拒否への介入行動以外の保育行動, 時期による関わりや視点の変化, 保育経験に対する検討の余地が残されている. また, 保育者の存在が幼児の発達に及ぼす影響についてさらに縦断的に検討する必要がある.

Table 1 <RCRTによる保育者Aと保育者Bの視点>

保育者A	保育者B
因子1 社会的で積極的, 自己表現が上手 (一人見知りで消極的, うまく伝えられない)	因子1 落ち着きがなくT(保育者)の注目をよく受け, 個人プレー (一人落ちていておとなしく集団行動ができる)
因子2 自己実現ができ優しい (一人周囲に流されやすく自己中心的)	因子2 Tに言葉で説明したり多く話し, 意欲的 (一人話さず, 消極的)
	因子3 周囲に目を向け活動を転換できる, Tと関わりが多い (一人自分で精一杯, 一人で遊べてしまう)

*付記 調査に御協力頂いた安見克夫先生, 担任の先生方と子どもたちに心から感謝申し上げます.